



Archaeologist / Koichi Mori
1928.7-2013.8

ハリス理化学館同志社ギャラリー 第2回企画展

森 浩一の考古学

— 遺跡を共有する精神

2014年4月12日(土)～5月25日(日)

会場：ハリス理化学館同志社ギャラリー 2階企画展示室

開館時間：10:00～17:00

閉館日：月曜日・4月29日～5月5日

入場無料(企画展・講演会とも)

講演会

『森浩一の考古学』

2014年5月11日(日) 13:30～16:30
同志社大学今出川校地明德館1番教室

事前申込
不要

講師：

寺沢知子氏(神戸女子大学教授)

「森先生と園部垣内古墳の発掘」

宮川 渉氏(奈良県立 橿原考古学研究所共同研究員)

「森浩一と遺跡保存運動の理念-いたすけ古墳をめぐる-」

天野幸弘氏(元朝日新聞編集委員)

「森浩一とマスメディア」

同志社大学今出川校地

ハリス理化学館同志社ギャラリー 2階企画展示室
(京都市営地下鉄今出川駅下車東へ徒歩3分)



趣旨

同志社大学名誉教授森浩一氏(8月他界)の足跡を、遺跡調査を中心にたどる。早熟な考古少年として10代から多数の遺跡調査に足跡を残し、同志社大学在学中から自由に研究調査活動を展開。本学教員となった後も、多くの考古学者を育てるとともに、マスコミでの発言・講演会・出版などを通じて考古学を広く社会に伝え続けた。

その学問的態度は、「定説への反抗」・「地域史への共感」・「分野横断的な論及姿勢」といった言葉で形容できるが、その根幹は「遺跡」にあった。森浩一氏にとっては、遺跡から考えること、その成果について社会的立場を越えて共有することが最重要であったのではないか。また、個性的な活動・表現を歓迎する本学の気風も、森氏の背景にあっただろう。

本企画展では、本学歴史資料館所蔵の森氏関連の遺跡出土品を主要な展示品とし、森氏の遺跡調査の履歴を振り返る。

それに加え、研究会・遺跡保存運動・マスメディアや講演会などでの市民へのアピールといった活動の資料から森氏の活動と戦後の考古学を考えてみたい。



同志社大学今出川校地
ハリス理化学館同志社ギャラリー 2階企画展示室
(京都市営地下鉄今出川駅下車東へ徒歩3分)